



道徳だより

2026. 3. 4 号
みよし市立緑丘小学校



5年生「家族のために」(内容項目C 家族愛、家庭生活の充実)

ねらい

家族は、家族みんなの幸せを考え、みんなで仕事を分担し、協力して家庭生活を維持していることを理解し、家族の幸せのために進んで役立とうとする意欲を育てる。

授業の様子

めあてを「家族の一員としてどんな思いをもっているよいだろうか」として提示しました。家族について「自分が困ったときに助けてくれる」「運動会で応援してくれた」「辛いときに相談にのってくれたり、一緒に喜んでくれたりする」と「してもらう立場」として感謝をすることができるが、自分自身が家族のことを考え家族のためにしていることは少ないと考えられます。そんな5年生にとって家族のためにどんな思いをもって、何ができるのかじっくり考える機会となりました。

教材名「家族のために」の概要

5年生のアキは両親と兄の4人で暮らしている。共働きで、帰りが遅くなることが多い。アキが小学校に入学してからは、家の仕事を分担するようになり、アキは洗濯物を取り込むことが仕事になっている。学校が終わって友達と歩いていると雨が降ってきた。「大変。急いで帰らないと」と走って家に帰りました。アキは、雨にぬれながらも何とか洗濯物を取り込んだ。「なんで、私ばかりこんな目に・・・」ぬれた髪の毛を拭きながら、腹を立てていました。その夜お父さんは帰りが遅くなりました。「ごめん。すぐ夕食を作るよ」と台所に向かう父を見て、『しっかりしてよ』と心の中で怒っていました。夕食を食べると取り込んだまま山積みの洗濯物の横を通り、自分の部屋へ行って寝ました。お母さんが帰ってきたのは夜遅くでした。次の日の朝、アキは遠足が楽しみでいつもより早く目覚めました。台所から「昨日は遅くなってごめんね」と母の声がありました。お母さんは、弁当のおかずのハンバーグを焼いていました。『あんなに遅くに返ってきたのに・・・』『お父さんもお母さんも私のことを考えて家の仕事をしているんだ・・・』アキは言葉に詰まってしまいました。遠足で食べたお弁当はいつもよりおいしく感じ、着ていった真っ白な体操服もなんだかいい匂いがしました。遠足が終わって家に帰ると、アキはいつものように洗濯物を取り込んだあと、一つ一つ丁寧にたたみました。「よし、あとは・・・」アキは弁当箱を出して台所に持っていき、ゴソゴソと洗い始めました。

最初に教材を読んだ後、「髪をタオルで拭きながらアキはどんなことを思っていたでしょう」と問うと「もうやりたくない」「なんで雨なんか降るのだろう」「私ばかりどうしてこんな目に」など自分の役割について不満に思っている意見が多く出されました。続けて「言葉に詰まってしまったアキは、どんなことに気付いたでしょう」と問うと「両親は不満を声に出さずにやっていること」「私だけがちゃんとやっていると思っていたこと」「両親は疲れていてもがんばって家のことをやってくれていることを知ったこと」と今まで知らなかったことに気付いたアキの思いについて答えていました。最後の場面で「弁当箱を洗い始めたアキはどんなことを考えていたのか」と問うと「ちょっとでも負担を減らさないと申し訳ない」「ちょっとでも家族の役に立てるといいな」「家族のために自分のできることをやりたい」などが出されました。授業の最後に今日の学びを振り返りました。ノートには、「自分の仕事に責任をもって家族のことを考えて行動し、誰も嫌な気持ちにならないように協力したい」「お父さんやお母さんは自分たちのことを考えてしてくれるので、感謝の気持ちをもって少しでもできることをしたい」などの記述がありました。

